

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
‘人工知能と製品開発’
— 2030年の技術 —

(株)ジヨンケルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in New Product Development

‘The relation between artificial intelligence and product development’

-Technology of 2030-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords: AI 音声アシスト・耐久消費財・市場・評価・画像表現

技術動向と問題提起

- 米国のAI調査会社であるガートナー社によれば、AIを核とした音声アシスタント機能を搭載した製品の市場は、2016年度実績の3億6000万ドル（約367億円）から、2020年には21億ドル（約2142億円）にまで拡大すると予測しています。
- 上記市場は、ホームアシスタント市場と呼ばれ、現在でもSiri、Alexa、Googleなどのトップ企業では、製品にAIを埋め込みスマートフォンをさらに便利にしたものとして提供しています。
- ある意味でのAIは、人類をスマート化させつつあることは確かでしょう。言い換えますと、人間の力だけでは不可能とされたものを情報処理能力を使って解決くれると言っても過言ではないでしょう。
- いわば、コンピューターの力を利用して、人間の知性がクラウド化するような時代を迎えつつあるといえます。意識しているか否かに関係なく、我々は「バイオニック」な存在になりつつあることは事実かもしれせん。
- しかしながら、AIを使いこなす教育がついてこれていないといえます。例えば、洗濯機・冷蔵庫に音声ナビとしてのAIを入れて販売しても、その価値を十分に生かしきれていないと断言しても良いと思います。特に今後は、耐久消費財の製品には、AI導入目的を明確にしたものが、ホームアシスタント市場に受け入れられると思います。

解決策の提案

- AI利用の製品は、例えば家電分野ではセンサーでゴミを感知ながら自走する掃除機、部屋の温度を認識して自動運転するエアコンなど、機械を制御する人工知能として活躍していることは周知の通りです。もうすでに身近な存在になっていますので、あまり認識しないかもしれません。また、スマートフォンに搭載された音声による操作アシスト機能は、言語認識という知能の一領域をコンピュータが担うものであり、今では当たり前という感覚になっているのではないのでしょうか。
- 今後の耐久消費財の一分野である洗濯機に焦点を当てますと、AIを導入しそれがきちっと評価される場面は、“きれいに洗えた”という最終結果を可視化して見せるだけでなく、洗浄過程でどのような信号を得、それをどのように補正したからこのように“きれいになった”という、いわばプロセスを画像的に表現できるかということではないのでしょうか。これは、冷蔵庫も同じでしょう。庫内に入れた品物の新鮮さをどのような過程で保持しているかということです。

この JQ International Review が、愛読される方の背中をさらに押すことができれば幸いです。
